

# 今ある人生はまさに「爪上の土」。だからこそ、人間的成長に全力を

## 浄土宗西迎院副住職／尼僧アイドル 光誉祐華（元愛\$菩薩）

## 中村 祐華氏

「優（やまと）は国のまほろば」。今回はいつもの東京ではなく、古代の英雄ヤマトタケルノミコトが「まほろば」（＝素晴らしい場所の意）と形容した大和国、現在の奈良県に足を運びました。訪ねたのは、同県吉野郡にある浄土宗の寺院・西迎院です。開基600年の歴史を有する同寺の副住職を務める中村祐華さんにお会いしました。

中村さんは日常的な僧侶としてのお勤めの傍ら、この7月9日まで「愛\$菩薩」、それ以降は「光誉祐華」の名で、尼僧アイドルとしての活動に取り組んでいます。女性僧侶のアイドル活動と聞いて眉をひそめる向きもあるかもしれませんが、中村さんは若者が集まるライブハウスなどで、音楽に載せてお経を称えたり、仏教の教えを歌詞に込めたオリジナル曲を歌ったりするなどし、若者と仏教の出会いのきっかけをつくろうとしています。

現代的な感性を備える僧侶の目に、モラルや道徳、そして仏法が失われつつある現代社会はどう映っているのか、さまざまなことをお聞きしました。読者の皆様がお子さんの足元を見つめ、考えるきっかけになれば幸いです。

### 念仏の捉え方に宗派の違い

山門前に、松尾芭蕉が述べたとされる俳諧の心得が貼り出しており、目に留まりました。「格に入りて格を出る。格に入らざれば邪格に入る。格に入りて格を出れば、自在なり」。



住職を務める父が書いたもので。中村 父の俳諧に「格に入りて格を出る」という言葉が貼られていて、私も読んで感動しました。お経を誦する格言だと思えます。本日はお忙しいところ、お時間を割いていただきありがとうございます。

### 父の姿に見た 仏の道の奥深さ

一方、浄土宗の念仏には、地獄・餓鬼・畜生道に落ちてしまいかもしれない日々の行いに対する懺悔と阿彌陀さまに救いを求める願いが込められています。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

早速ですが、いわゆる世界三大宗教に数えられるのは、キリスト教、イスラム教のほかには、どの宗教があったら、浄土宗と浄土真宗の違いを教えてください。

浄土宗は平安末期の十一世（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身は独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。



浄土宗は平安末期の十一世（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身は独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の十一世（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身は独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の十一世（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身は独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の十一世（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身は独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の十一世（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身は独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

皇経グループ 会長 畠 善昭



浄土宗西迎院副住職／尼僧アイドル 光誉祐華（元愛\$菩薩）

中村 祐華氏

浄土宗西迎院副住職／尼僧アイドル 光誉祐華（元愛\$菩薩）

【Profile】 中村 祐華氏

なかむら・ゆうか。1982(昭和57)年奈良県吉野郡生まれ。佛教学科浄土学専攻卒業後、僧侶として実家の西迎院に入る。2007(平成19)年から「愛\$菩薩」を名乗り、「若者が仏様とご縁を結び架け橋になれるよう」、お経をトラック(曲)に合わせて称え、MCは法話、仏教的意味合いを込めたオリジナル曲で法事(ライス)活動をしている。今年7月からは、父親である住職が付けてくれた戒名である「光誉祐華」に改名し、活動を続けている。アルバムCDは「菩薩 Revolution」、「菩薩 Calling」の2枚を発表。改名後にシングル「光」を発表。

### 殺生への鈍感さに強い危惧

とりわけ「生き物を殺すな」は大事ですね。実は昨年の秋、近所の中学校から命についての講演をしてほしいと頼まれました。そこでこんな話をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

### アイドル+菩薩でインパクト重視

尼僧アイドルの活動はいつから始めたのですか。

二十五歳の時からです。大学を卒業してすぐに実家に戻り、父の手伝いを始めました。そこで驚いたのが、あまりにも若い人がお参りに来ないということでした。お彼岸などの年中行事でも、若くて50代くらい。各家庭の法事を勤めて、お子さんが都市部に就職し忙しいとか、お孫さんがいても塾や習い事優先で法事に出ないという現状でした。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

### 仏教への関心は高校時代に

七月九日のワンマンライブを境に、名前を光誉祐華に変えることか。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。

父方の祖父が亡くなりまして、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で迫ってきた別れの悲しみと自分は何もできない無力感が私を苦しめていました。父のそんな姿を見て、家族との死別という一番辛いことを乗り越えさせてもらえなかった私に、浄土宗系の佛教大学を選びました。そこで仏教の勉強をしました。